

令和6年度愛知県特定鳥獣保護管理検討会（第2回）

日時：令和7年2月28日（金）午後2時から

場所：愛知県三の丸庁舎地下1階 B101 会議室

（1）令和6年度愛知県特定鳥獣保護管理検討会（第1回）における意見と対応について

- ・事務局から説明

（構 成 員）妊娠率のサンプル数は捕獲した個体に対する調査であるため、どうしようもないが、とれる範囲でデータをきちんと残すことが重要。妊娠率が低いことについて、捕獲されている場所が分布の周縁部であるため、その影響もあるかもしれない。

（構 成 員）岡崎市のカモシカ調査についてはどこに委託しているか。最近は様々な調査会社等があり、調査のレベルにばらつきがある。調査水準を確保できているか。

（事 務 局）農林水産省や環境省の人材バンク等に登録されている調査員が従事しているところに委託したと聞いている。

（2）令和7年度市町村実施計画（ニホンジカ、イノシシ及びニホンザル）（案）について

- ・事務局から説明

【ニホンジカ及びイノシシ】

（構 成 員）ここ数年、ニホンジカの個体数は横ばい、捕獲数は大きく増えておらず、現状のままでは捕獲目標の達成が困難とのこと。この現状に対して何をしなければいけないのか、まずは目先の対策を考えなければならない。

（構 成 員）狩猟免許取得者が増加しているものの捕獲につながっていないことについて、具体的な事例や傾向を掴んで捕獲従事者を増やすための対策を考える必要がある。

狩猟で実施する捕獲の中の一連の作業のうち、どの部分を支援したらよいのかということもある。狩猟免許を取得し、狩猟を実施してみても全く捕獲できないことがモチベーションの低下につながっているのではと思う。大多数の人は1頭も捕獲できず、複数頭捕獲できるのはほんのわずかであるという報告を聞いたことがある。捕獲を強化するために、わなの稼働量を増やすにはどうすればいいか、短期的、中期的にどのような手を打っていくのか、段階ごとに具体的な解決策を模索しなければ結果に反映されない。

（座 長）当初のニホンジカの第二種特定鳥獣管理計画（以下「特定計画」という。）で年6,000頭以上の捕獲ができれば、個体数減少が見込めるという計画であ

ったが、現状想定どおりでないにしろ、ある程度成果は出てきているか。

(事務局) 現状、当初の想定より個体数が減少していない。個体数推定については、現状、生息状況の指標を十分に取り込めていないので、来年度から予定している特定計画の見直しに向けた調査を踏まえて、評価していきたい。

(構成員) 個体数推定把握の精度を高めることは必要。ニホンジカの特定期間は個体数を大きく減らす計画であり、現状、捕獲し過ぎて個体数が減りすぎる心配をする必要がない。また、経験則的には、個体数推定は概ね過少推定の傾向があると思う。大きく減らすためにはそれなりの規模で、進捗管理しながら行う必要がある。算出された必要数以上に捕獲を進めていくことも視野に入れる必要があると思う。

(座長) 以前の検討会でも話があったことだが、個体数を大きく減らすためには、計画1年目は捕獲目標を大きくするなど、段階的な目標設定の考え方もあったと思う。県としては、年間6,000頭以上捕獲できていれば、生息数の目標は達成できると見込み、捕獲目標については達成できているが、個体数の目標を達成するには、捕獲目標が不十分であったと思う。

(構成員) 結局のところ、特定計画が実態に見合わなかったということだと思う。それ自体はどこでもあり得ることだが、より早期に軌道修正していく必要がある。捕獲従事者も高齢化等で減少する一方で、新規従事者の確保・育成が追い付いておらず、捕獲従事者に係る状況も悪化していくことが想定されることも考慮しなければいけない。

(構成員) 県猟友会の新規入会は毎年100人程度で増加傾向だが、最初の狩猟免許の有効期限が来たときに免許を更新せず辞めてしまう人がいることや、高齢会員の退会等による減少があり、差し引きで会員数は毎年微減している。

県猟友会で実施している狩猟免許試験の事前講習会で参加者に聞いてみると、有害鳥獣捕獲をやりたいという声を多く聞く。

しかし、例えば名古屋市内で免許をとって鳥獣被害が多い市外で活動しようとしても、そもそも捕獲許可が出にくいし、仮に出たとしても現地へのアクセスから毎日のわなの見回りが事実上不可能で、実際に捕獲活動ができるわなの捕獲従事者は都市部にはおらず、三河地域に集中している。

また、配信されている動画等からイノシシの捕獲等に興味を持つ者もあるようであるが、狩猟を実施するうえでまず課題となるのは猟場が見つからないことであるが、猟場の探し方や現場での技術習得をどうするのかなどは動画に紹介されていない。

県猟友会としては狩猟初心者等を対象に、講習会等を実施して技術の継承に取り組んでいるが、技術的なこととは別に猟場の確保などの課題があり、実際に捕獲を行うことができないままやめてしまっているように感じる。

(事務局) 県でも、狩猟初心者向けにセミナーを行うなど捕獲従事者確保のための取組を行っているところである。現状、県内では1年中有害鳥獣捕獲が実施されており、狩猟をする際に有害鳥獣捕獲と競合しトラブルが生じないようにしようとすると、猟場の確保が困難という話を聞く。捕獲を推進するため、有害鳥獣捕獲は不可欠であるが、それにより猟場の確保が困難になっているようにも感じる。

(構 成 員) 森林総合研究所によるとニホンジカの個体数は年 20%増加するので、個体数を減らすにはそれなりの対策が必要。森林総合研究所の研究で、塩水によるメスジカの誘引については、効果があったという報告がある。

愛知森林管理事務所で、段戸国有林や金沢段戸国有林でわなによる捕獲を職員で実施している。わなの周辺に誘引のために餌を撒いているが、今年はこのエサに塩を撒いてみて、効果あるか検証しているところである。わなの設置数が少ないことや、試みを始めたところであることから、結果はまだ出ていない。いずれにしろ、個体数を減少させるためにはメスジカを選択的に獲る必要があると考えている。

(構 成 員) 捕獲したニホンジカの雌雄比率について、年ごとのデータはないか。

(事 務 局) 鳥獣関係統計で、ニホンジカについて雌雄別（不明含む。）で集計しているのですが、本日用意はできていないが、データとしてはある。

(構 成 員) ニホンジカの個体数の状況から、おそらく、20年スパンで見れば、メスの捕獲割合は増えてきていると考えられる。現状はおそらく、メス5割程度ということで、最低限は獲れているとは思いますが、目標としては7割くらい獲れば良いかと思う。

(構 成 員) 錯誤捕獲について、くくりわなで錯誤捕獲されるのは何が多いか。また、ニホンジカとイノシシは同じようなわなを使うが、捕獲許可の出し方について、どのように出されているか。両方生息している地域ではまとめて許可がされているとよいかと思うがどうか。

(事 務 局) 錯誤捕獲の実態はあまり把握していない。捕獲と異なり、作業に対する報奨金等も出ないため、市町村でも把握されていない例が多いようである。また、ニホンジカとイノシシが両方生息しているところでは同時に両方とも許可されている。

【ニホンザル】

(構 成 員) 令和6年5月にニホンザルの特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（以下「ガイドライン」という。）が改定されたが、市町村の反応はどうか。

(事 務 局) そもそも、群れの動向が把握できていないところが多いため、目立った反応はなかったと思う。

(構 成 員) ニホンザルの被害防止対策として、ワイヤーメッシュと電気柵の複合柵について評判はどうか。

(野生イノシシ対策室) 県で把握している範囲で、市町村の事業で導入しているところはない。県で、実証実験的に設置して、市町村等に普及啓発を行っている。

(構 成 員) 関西の方ではいい評判も聞くので、効果があるようであれば、展開いただきたい。

(構 成 員) 改定されたガイドラインでは、地域別で孤立を防ぐように配慮すべき地域が定められて、愛知県にはそういった地域はないが、県の分布調査の結果、瀬戸市に群れがあるとのこと。被害等もあまりなく、さほど認識されていない群れのようなのだが、これについては何か情報はるか。

(事務局) 近年、瀬戸市ではニホンザルによる農作物被害や捕獲の報告はない。ただ、令和4年度に近隣の犬山市で2頭捕獲されているので、瀬戸市の群れと同じかどうかかわからないが周辺に群れは存在していると考えられる。

(座長) より対策を強化すべき市町村はあるか。

(事務局) 岡崎市は以前から加害レベルが高い群れがあり、捕獲対策も全頭捕獲(群れ捕獲)を計画し、対策を進めている。加害レベルは依然として高い水準であり、対策強化が必要と考えている。その他について、そもそも群れの状況を把握できていないのが実態である。

(構成員) 県は将来的にどうしていきたいのか。分布拡大を防ぐ、群れの規模を縮小させるなど具体的な管理のあり方があまり議論されていない。総論として、現状維持しながら被害を軽減したいというようなところだが、県、市町村のスタンスとしては当面はそれでよいか。例えば、耕作地付近の群れの数はできるだけ削減して、生息場所を奥地に押し込む考えもあると思う。実際にやろうとすると、関係者の手間と覚悟と費用等、大変だと思うが、そこまで想定しなくてよいか。

(事務局) ニホンザルの被害について、ニホンジカやイノシシほど問題となっているという話は聞かない。

(野生イノシシ対策室) 被害を受けている生産者の声として、減らせるものなら減らしてくれというところではあると思う。しかし、実際そこまで手間と労力をかけてまで、ニホンザル対策を実施していくかという議論はされていない。ひとまず被害が悪化しないように、少しでも良くなるような活動がされているという印象である。

(3) 指定管理鳥獣捕獲等事業(ニホンジカ及びイノシシ)について

(座長) 根絶について取り組んでいる渥美半島でのイノシシの個体数について、近況はどうか。

(野生イノシシ対策室) 令和5年度までの調査結果ではかなり減っていた。令和6年度の調査結果については集計中だが、令和5年度より増加しているよう。

(構成員) 指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲数は、捕獲区域内で全体の捕獲数のうち、どれぐらいを占めているのか。

(事務局) ニホンジカについて、5kmメッシュ単位ではメッシュ内で捕獲されたうち、7、8割は指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の地域がある。

(野生イノシシ対策室) 成獣メスの捕獲、山中の捕獲くくりわなで9月以降力を入れて捕獲を進めている。

(構成員) 1頭捕獲する際に要している費用について、ニホンジカで10万円/頭程度、イノシシで40万円/頭程度。指定管理鳥獣捕獲等事業の実施場所が有害鳥獣捕獲等による捕獲が進んでいない場所や分布の先端などそれぞれ条件が異なると思うが、費用の規模感としてはこれぐらいが妥当か。

(事務局) ニホンジカを1頭捕獲する際に要している費用について、都道府県によって、捕獲事業の内容が異なるが、そこまで高すぎる数字ではないと考えている。愛知県では指定管理鳥獣捕獲等事業を有害鳥獣捕獲等や狩猟が実施されていないアクセス等が困難な場所で行っているため、どうしても費用が高くなってしまうと

考えている。

(野生イノシシ対策室) イノシシについて、田原市では市全体の捕獲数のうち、指定管理鳥獣捕獲等事業は約1割である。指定管理鳥獣捕獲等事業では、成獣メスの捕獲や、有害鳥獣捕獲の空白地帯である山中の捕獲を進めるため、くくりわなで9月以降に力を入れて実施している。捕獲数を増やすには、暖かい時期に箱わな等で行った方がいいかもしれないが、市町村が実施する有害鳥獣捕獲との差別化を図るとともに、効果的に個体数を減らすためにこのような考え方で捕獲を進めている。捕獲の割合は低いかもしれないが、個体数を減らしていくためには必要な取組である。

(構 成 員) イノシシの捕獲の重点時期について、7、8月はたしかに幼獣が多いが、成獣の捕獲数の絶対数も多い点にも留意すべきである。成獣の捕獲が多い、秋以降に捕獲を強化することも1案であるが、成獣メスの捕獲を推進するには、7、8月に重点的に実施した方がいいように見える。幼獣を除いて考えたとしても、この時期の捕獲はやはり重要だと思う。改めてデータに基づき検討されたい。

(4) その他

- ・今後のスケジュールについて確認